



みちのく水辺の楽校だより

2018年 5月号



マルバタケフキ

この「里山地区」には、薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡も残っています。

みちのく公園ではこの「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然のかかわりが培ってきた里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。

5月13日(日) 曇り 竹林の管理と水辺のお掃除

何とかお天気がもちましたね。里山の竹林をきれいに管理するため、タケノコ掘りをしました。今年の春は早くて、少々、育ちすぎかな？竹に近くなった大きなタケノコです。

そのあとは、水辺の生き物観察と水辺のお掃除をしました。ホタルが暮らしやすい水辺にしていくためです。

竹林の管理！

水辺をきれいにするためには、山をきれいにするのが大切なのです。なにしろ水辺と里山は一体ですからね！

里山の竹林は、あまりに竹が増えすぎて鬱蒼となるのも困りもの。そこで、この時期にどんどん増えるタケノコ掘りをしました。

今年の春は気温が高く、春がどんどん過ぎていきます。タケノコもずいぶん大きくなっていました。



いざ、竹林へ



おお、こんなに！



「びっきの広場」で生き物観察！

「びっきの広場」で生き物観察をしました。曇り空だったためか、あまりトンボは飛んでいませんでしたね。

水辺のお掃除

夏にホタルを観察するのは、西の土場近くの田んぼ跡の水辺です。夏に向けて、この水辺のお掃除をしました。



次回、第3回「水辺の楽校」は6月10日(日)、ビッキの水辺の道づくりなどをします。